

編集後記

今号では香港日本語教育研究会の四十周年を記念した祝辞を日本学刊に掲載することが出来ました。大変お忙しいなか、貴重なお言葉をお送りくださった関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。私たちがいま香港の日本語教育に関わっているのは、1960年代、70年代と日本語教育草創期に日本語学校や大学の学科をいちから築いてこられた先輩方と、日本関係団体の皆様のご支援のおかげと再認識いたしました。日本学刊や香港日本語教育研究会の活動を、日本語に興味を抱いてくださる学習者や新しく日本語教師となる先生に開かれた場所にする責任を感じております。

本編では論文2本、研究ノート7本、学術エッセイ2本、報告3本を掲載することができました。日本学刊に貴重な原稿をお送りいただいた投稿者の先生方へあらためて感謝申し上げます。日本学刊は日本に関係する研究者、教育者、実践者、学生のプラットフォームを目指しております。香港の多言語多文化性を生かし、日本語・英語・中国語の3言語での投稿を広く受け入れており、大学院で研究に従事する学生さんからの投稿も奨励しております。また本年は香港で2年ごとに開催されているシンポジウム、第12回国際日本語教育・日本研究シンポジウムが香港理工大学と香港日本語教育研究会の共催で12月8日、9日に行われます。毎年出版される日本学刊と隔年開催のシンポジウムは香港の日本語教育・研究の両輪です。1994年に第1回が香港城市大学で開催されて以来、香港大学、香港中文大学、香港公開大学と場所を移し、返還をまたぎ20年以上に渡って開催されてきました。日本語教育と日本研究の学生や研究者が学術分野や経験の多寡を越えて自由に交流できる機会にできたらと願っております。

最後に研究の合間を縫って投稿作品を審査して下さった外部査読者の先生方、原稿の誤字脱字を丁寧に指摘して下さった編集委員の皆様へ感謝申し上げます。日本学刊を毎年度、無事に刊行することができるのは皆様が貴重な時間を割いて、無償で協力してくださっているのおかげです。日本学刊21号が、手にとってくださった皆様にとって有意義な学術雑誌となるよう編集者一同、心から願っております。またこの場を借りて香港日本語教育研究会シャノン・ウォン氏が厳しい出版スケジュールの中、レイアウトや査読の連絡を担当してくれたおかげで無事出版に至ったことを感謝と共にここに記します。

編集委員長 青山 玲二郎
2018年5月吉日